金石の交わり三十余年

鶴雅グループ創業六十周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

昭和五十六年、当時、二十代半ばだったあなたと初めてお会いしたことを今でも時折思い出すことがあります。初対面の印象でもある「しずかな情熱」は、三十数余年の間に北海道のみならず全国の観光業界をもリードする企業へとなった現在も変わらず燃え続けています。

現在ではひがし北海道観光の拠点となっている道東各地の温泉地。当時は「点」でしかなかった各地区を道東という「面」でアピールする共同プロモーションの展開や経営手法を研究した「北風会」の活動を懐かしく思いだします。

当時、厳しい経営環境にあった七地区、七館の若手経営者が集まり、諸課題をオープンにし、情報を共有・協議することで数々の問題点を克服することができました。

北風会の志は、現在の若手経営者たちにそのDNAが引き継がれ、所在地は違えども、旅館運営で共通する問題点を話し合い、解決に向け取り組む様に当時の私たちの姿を重ねてしまいます。あなたの独自の経営戦略は、当時の私たちにはもちろん、現在の若手経営者にも大いに参考になっていることでしょう。

そうして鶴雅グループを阿寒・ひがし北海道、北海道を代表する企業に育てた手腕は「観光カリスマ」として二〇〇三年に国からも認められることになり、共に道東・北海道の観光振興に携わった者として大変誇らしく思いました。

来年には、北海道新幹線の開業、そして二〇二〇年の東京オリンピックなど観光業としても重要なトピックが控えるなか、阿寒はもちろん、道東、北海道の観光振興により尽力いただき、共に邁進してゆきたいと強く思います。

ニーズがより多様化し、海外からのお客様が増加してゆくなかでも、私たちの原点である「温泉旅館のおもてなし」の心を忘れず、これからも道東・北海道を、そして日本を代表する企業として益々のご活躍を期待しお祝いの言葉と致します。

日本旅館協会 北海道支部連合会 会長
株式会社 知床グランドホテル 代表取締役社長

桑島 繁行氏

真実のおもてなしにふれて

北の大地、北海道が大好きです。特に阿寒湖周辺の自然がたまらないくらい好きです。年に何度か訪れますが宿は決まって、あかん遊久の里鶴雅です。何故って、それは鶴雅グループ全体に云える事は働く人達の「真実のおもてなし」が素晴らしいからです。北海道だからこそ伝える事が出来る歴史や、文化、自然そして人間との繰り為すその物が物語なのです。土地の人々が大切に育んできた一万年の物語なのです。

昭和15年9月、詩人野口雨情はこの地を尋ね《駒は嘶く釧路の平野、鶴も来て舞う春採湖、遠く雄阿寒群立つ雲は釧路平野の雨となる。釧路いとしや夜霧の中に月もおぼろにぬれて出る。知人岬の波うちきはを啼いて渡るは磯千鳥山は遠いし野原はひろし水は流るる雲はゆく…。

雨情の詩が語るように釧路から阿寒に掛けて自然の楽園が味わえるこの北の大地に60年の歴史を刻んだ鶴雅グループの記念すべき日を迎え心からお祝い申し上げます。鶴雅グループの最大のお持て成しをするスタッフ達は、慈雲尊者、仏教の真髄を道破したと云われる江戸中期の高僧の言葉に《本来人》人らしい人になれ…と云う言葉ですが、なぜか鶴雅グループのスタッフ達は皆さん、天から授かった天真爛漫なお持て成しを心からしてくれる。だから60年の歴史を重ねて来られたと思います。

鶴雅グループのスタッフには宿泊するたびに何が真実かを教えて頂いている氣がします。その親切なスタッフの皆様に五観の偈をプレゼントさせて頂き日頃の御礼としたい。和食が世界遺産に指定され、我が国も観光立国を国を挙げて活動し始めました。お世話に成っている奈良県平群の里にある信貴山朝護孫子大本山山手千手院の田中真端管長さんから教わりました寺の食事の作法です。

一つには功の多少を計り彼の来所を量る。
二つには己が徳行の全闕を忖って供に応ず。
三には心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす。
四には正に良薬を事とするは形枯を療ぜんがためなり、
五つには成道の為の故にいま此の食を受く。

感謝と祈りの御言葉を大切にし、鶴雅グループの益々の栄えます事を御祈念申し上げます。鶴雅グループ60周年を記念してお祝いの言葉とします。

日本ソムリエ協会名誉顧問
東京グリンツィング オーナー

熱田 貴氏